

大郷町教育委員会事務事業 点検・評価報告書

(平成24年度事業)

平成25年12月

大郷町教育委員会

～ は じ め に ～

教育委員会制度は、首長からの独立、合議制、レイマンコントロール※により、政治的中立性、継続性・安定性の確保、地域住民の意向の反映を図るものとして、戦後わが国に導入され、地方教育行政の基本的な制度として定着しています。

また、地方分権の進展や教育に関するニーズの高まり、教育委員会の担任業務の多様性や専門性などから制度創設時から現在に至るまで、随時、制度改正を重ねてきました。

このような中、平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、平成20年4月から施行されました。

この改正法の大きな柱の一つであります「教育委員会の責任体制の明確化」の方策として、効果的な教育行政に資するとともに住民への説明責任を果たすため、教育委員会が毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うことが義務付けられました。

本町教育委員会においては、毎月、教育委員会会議を開催し、教育行政に係る基本方針や計画策定などの重要事項について審議するとともに、教育施策に関する研修、教育施設への視察等を行うなど、事務局と連携しながら、積極的な活動を通じて教育行政の推進に努めてきました。

さらには、議会教育民生常任委員会との意見交換会や、教職員との教育懇談会を開催するなど、さまざまな関係組織と連携しながら、開かれた教育委員会の推進に取り組んでいるところです。

本報告書では、今後のさらなる効果的な教育行政の推進に資するために、学識経験者のご意見等をいただきながら、平成24年度の教育委員会の活動状況や教育委員会が実施した施策全般について、点検・評価を行った結果を報告いたします。

平成25年12月

大郷町教育委員会

※「レイマンコントロール」は、専門家だけの判断に偏ることなく、住民のニーズを適切に施策に反映させる仕組みである。

大郷町教育委員会事務事業 点検・評価報告書
(平成24年度事業)

目 次

I	点検・評価の概要	1
1	点検・評価の趣旨	1
2	点検・評価の対象及び方法	1
3	学識経験者の知見の活用	1
II	教育基本方針	2
1	大郷町教育基本姿勢	2
2	平成24年度教育基本方針	2
3	平成24年度教育重点施策	2
III	教育委員会の活動状況	8
IV	教育重点施策等の点検・評価	10
1	学校教育の充実	10
(1)	幼児教育(幼稚園)	10
(2)	義務教育(小学校)	14
(3)	義務教育(中学校)	18
(4)	学校給食	22
2	生涯学習の推進	24
(1)	社会教育の充実	24
(2)	公民館事業の推進	28
(3)	社会教育施設	38
(4)	社会教育指導者との連携	39
(5)	社会教育団体の活性化・支援	39
3	生涯スポーツの推進	40
(1)	生涯スポーツの活性化	40
(2)	生涯スポーツ指導者の支援	44
(3)	生涯スポーツ団体の活性化支援	44
(4)	生涯スポーツ施設の整備と活用促進	45
4	文化財	46
(1)	文化財の理解	46
(2)	文化財の保存・継承	46
(3)	文化財関係機関(団体)の連携	47
V	点検・評価に対する学識経験者の意見	48

I 点検・評価の概要

1 点検・評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくため、本町教育委員会が実施する教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施する。

2 点検・評価の対象及び方法

本年の点検・評価の対象事業は、平成24年度教育基本方針に基づく重点施策や具体的な事業等を対象とし、その主な取り組み状況についての点検及び評価を実施した。

本町教育委員会による点検・評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を本町議会に提出するとともに、町民に公表を行う。

3 学識経験者の知見の活用

点検・評価の実施にあたっては、学識経験を有する3名の方々に依頼し、点検・評価の内容についての意見を伺った。

氏 名	役 職 等
日 下 隆 郎	大郷町区長会会長、第8行政区長、 元大郷町教育委員会教育次長
高 橋 竹 光	大郷町人権擁護委員、元大郷町立大谷小学校長
若 松 ヨ シ 子	大郷町人権擁護委員、元大郷町立大松沢中学校長、 元大郷町乳幼児総合教育施設長兼大郷幼稚園長

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ 教育基本方針

大郷町教育基本姿勢

おおさとは、美しい山河、豊穡な土地に恵まれ、農業を基幹産業にしてきた。また、仙台市、塩竈市等の都市に近く、以前から多くの人々が通学・通勤してきた。そうした特性を生かし、「農村」と「都市」そして「人」が共生する『田園都市づくり』を推進している。

その礎は、「まちづくりは人づくり、人づくりは教育」であり、故郷の心を大切にして、新しい時代を拓く『心豊かでたくましく生きる人間の育成』を一層充実させるため、学校や家庭及び地域社会が協働しながら教育を推進する。

平成24年度教育基本方針

夢を描き 創造し 健やかで 活力ある田園都市づくりを目指し

自分を磨き、豊かな学びを育む生涯学習の推進

創意と活力に満ちた、特色ある学校教育の推進

芸術・文化活動の推進と伝統文化の保存・継承

健康・夢・ふれあいを育む生涯スポーツの推進

を重点に、学校・家庭・地域の強い絆のもと、生涯にわたる教育の充実に努める。

平成24年度教育重点施策

◇ 生涯学習

町民一人一人が、生涯を通し自分を磨き、豊かな生活と、活力と潤いのあるまちづくりができる、豊かな学習体制の充実を図る。

1 学校教育

学校教育は、人間を大切にする精神にたち、社会の変化に適切に対応できる、豊かな心と健やかな体を持つ子どもの教育を目指して行う。

そのために、学校の創意工夫を生かし、子どもの多様な能力や学習意欲を高め、自立して生きるための基礎・基本の確実な定着を図り、夢と志を持ち、その実現に向け努力する子どもの育成に努める。

(1) 幼児教育

幼稚園教育と保育園保育の特性を理解し、尊重し、一体化を推進しながら、幼児教育の充実に努める。

- ① 保育園と一体化した教育の推進
- ② 学びの連続性を踏まえた教育の推進
- ③ 特別支援教育の充実
- ④ 人・歴史・文化との触れ合いの推進
- ⑤ 教職員の資質の向上
- ⑥ 関係機関との連携強化
- ⑦ 教育環境、施設・設備の充実

(2) 義務教育

小学校の統合により、一貫教育の推進を図る。

豊かな心、確かな学力と体力を基に、夢と志を持ち、その実現に向け、自ら学び自ら考えて行動できる児童・生徒の育成に努める。

- ① 特色と活力に満ち信頼される学校教育の推進
 - 1) 新指導要領に基づく教育課程の編成と実践
 - 2) 学校・家庭・地域の協働による学校づくりの推進
 - 3) 特別支援教員補助者の配置
 - 4) 町主催行事への参加・地域文化と触れ合う行事の推奨と支援
 - 5) ボランティアによる登下校指導
- ② 幼・小・中一貫教育の充実
 - 1) 子どもの特性の理解と、個に応じた継続的指導の推進
 - 2) 指導の重複を省いた効率的な指導の推進
 - 3) 子どもの校種間交流の推進
 - 4) 教員が他校種の指導内容を理解する研修の充実
- ③ 豊かな人間性と生きる力の育成
 - 1) 生きる力を高める道徳教育の充実
 - 2) 志教育の推進と支援体制の整備
 - 3) 心が響きあう人間関係の樹立
 - 4) 学校不適応児童・生徒への指導充実
 - 5) 自然体験学習の推進と支援
 - 6) 自然・遺産等への畏怖心醸成

- ④ 確かな学力の向上
 - 1) 基礎基本を重視した教育課程の編成と実践
 - 2) 個の能力に応じた指導の工夫と実践
 - 3) 少人数指導の充実
 - 4) 宮城教育大学との連携による、課外指導の充実
 - 5) 読書の推奨と図書館教育の充実
 - 6) 保護者との連携を強化し、学ぶ意欲の高揚と家庭学習の推進
 - 7) 地域の人材活用
- ⑤ 確かな体力の育成
 - 1) 個の体力に応じた運動量確保の指導計画作成と実践
 - 2) 学校の環境を生かした体力づくり計画作成と実践
 - 3) 業間休憩での体力づくり推進
 - 4) 健康教育を通して、生涯スポーツの基礎・意欲を培う指導
 - 5) 食育指導の充実
 - 6) バス待機時間の身体活動推進
- ⑥ 特別支援教育の充実
 - 1) 障害に応じた特別支援教室の設置
 - 2) 障害・発達状況に応じた指導計画の立案と実践
 - 3) 特別支援教員補助者配置
 - 4) 普通学級・地域との交流推進
 - 5) 関係機関との連携強化
- ⑦ 魅力ある教育環境の整備
 - 1) 安全で信頼される教育環境の整備
 - 2) 地域の教育力を生かした学習環境の創設
 - 3) 学習意欲を刺激する備品・教材・教具の整備
- ⑧ 教職員の資質向上
 - 1) 多様で特色ある教育実践が可能な指導力向上を図る研修の充実
 - 2) 使命感の高揚と実践能力の向上を図る研修の充実
 - 3) 危機管理能力を高める研修の推進
 - 4) 宮城教育大学との連携による指導改善研究推進

2 社会教育

町民が、いつでも身近で、望む学習が可能な生涯学習体制の整備を推進する。

(1) 社会教育の充実

- ① 社会教育の活性化
 - 1) 各種講座の開設と、継続的活動の支援
 - 2) 生涯学習情報の発信
 - 3) 社会教育指導者の育成
 - 4) 家庭・地域が学校と連携した活動の推進
 - 5) 出前事業の活発化
- ② 芸術・文化活動の推奨
 - 1) 郷土芸能（無形文化財等）の継承と活動支援
 - 2) 学校と連携した郷土芸能の紹介と取組奨励
 - 3) 郷土芸能の指導者育成支援
 - 4) 郷土芸能の備品整備
 - 5) 文化協会との連携強化
- ③ 家庭及び地域の教育力向上と活性化
 - 1) 各種家庭教育事業の開催と活動の継続支援
 - 2) 地域における指導者支援
 - 3) 各種情報の提供
 - 4) 食育の推進
- ④ 青少年教育の充実
 - 1) 各種研修会の開催と町外研修会への参加促進
 - 2) 年少指導者の育成と指導機会の提供
 - 3) 各種体験活動への参加促進
 - 4) 青少年教育指導者の組織化・活動支援
 - 5) 青年団体支援と各種事業への参加・協力推進
 - 6) 各種生涯学習・関連事業の情報発信
- ⑤ 公民館活動の充実
 - 1) 学習意欲が高まる魅力的な環境の整備
 - 2) ライフステージを踏まえた事業の発展と継続的活動の促進
 - 3) 各種団体の活動支援
 - 4) 出前事業の充実
 - 5) 指導者の研修充実
 - 6) 地域に密着した活動の推進
 - 7) 地域に根ざした分館活動の活性化支援

- 8) 読書活動の充実
- ・蔵書の拡充
 - ・出前図書館の充実
 - ・司書職員の配置
 - ・図書室（館）の新設・移転の促進
 - ・分館の図書室機能保有促進

(2) 社会教育施設

- ① 施設の整備・充実
- ・大郷町文化会館
 - ・大郷町粕川社会教育センター
 - ・大郷町大松沢社会教育センター
 - ・大郷町町民体育館
 - ・大郷町総合運動場
 - ・大郷町B & G海洋センター
 - ・フラップ大郷2 1
 - ・大郷町自由広場
- ② 各施設利用手続きの一元化の促進

(3) 社会教育指導者との連携

(4) 社会教育団体の活性化・支援

3 生涯スポーツ

生涯健康で、活力に充ち、生きがいを感じて生活が送れるよう、誰もが参加できる事業の展開と、継続して活動ができる体制の実現に努める。

(1) 生涯スポーツの活性化

- ① 生涯スポーツ振興長期計画の策定
- ② 青少年の夢を育む活動の支援
- ③ 町民の健康・体力の維持増進を図る活動の奨励と支援
- ④ 地域をつくるスポーツ活動の奨励
- ⑤ 生涯スポーツ団体との連携強化
- ⑥ 町・教育委員会の主催行事の活性化と、活動継続の支援
- ⑦ ニュースポーツの普及と継続支援
- ⑧ 出前活動の促進

(2) 生涯スポーツ指導者の支援

(3) 生涯スポーツ団体の活性化支援

(4) 生涯スポーツ施設の整備と活用促進

4 文化財

大郷町には、誇れる文化財が多く現存する。遺産を理解し、畏敬の念を持ち、保存・継承に努める。

(1) 文化財の理解

- ① 文化財紹介の情報発信
- ② 町内施設への発展拡充
- ③ 見学の機会提供と支援
- ④ 学校・各種団体等での文化財学習機会の拡充

(2) 文化財の保存・継承

- ① 保存施設・遺跡等の情報発信
- ② 収集、発掘、保存体制の整備
- ③ 遺跡の整備
- ④ 歴史資料館の拡充ないし移転の促進

(3) 文化財関係機関（団体）の連携

Ⅲ 教育委員会の活動状況

本町教育委員会では、毎年度、教育基本方針と重点的に取り組む施策を定め、これを基に各種の事業を展開している。

本町教育委員会においては、毎月1回の教育委員会定例会に加え、必要に応じて臨時会を開催した。

さらに、会議のみならず、現場の意見に基づいた議論を行うために、式典等の行事への参加はもとより、学校訪問や視察、定例会終了後の研修等を積極的に行うなど、活発な活動を通じて教育行政の推進に努めてきた。

平成24年度における教育委員会の主な活動状況については、次のとおりである。

1 教育委員（平成24年度在籍者）

職名	氏名	任期
委員長	熊谷泰弘	平成21年6月25日～平成25年6月24日
委員長職務代行者	武田陽子	平成23年10月1日～平成27年9月30日
委員	高橋幸也	平成23年8月17日～平成25年11月30日
委員	武藤光広	平成23年8月17日～平成26年9月30日
委員(教育長)	鹿野毅	平成22年6月18日～平成26年6月17日

2 教育委員会活動

項目	回数	活動内容
教育委員会会議の開催	13回	定例会及び臨時会の開催 定例会12回、臨時会1回
教育委員会会議の傍聴者の状況	0人	傍聴者なし
議事録の公開、広報・公聴活動の状況	0件	会議録の開示請求0件
研修会への参加状況	4回	黒川郡町村教育委員会研修会 東北六縣市町村教育委員・教育長研修会 県町村教育委員会研修会 県市町村教育委員・教育長研修会
学校等所管施設訪問	2回	小学校、中学校

会議の開催状況

区 分	期 日	主 な 付 議 事 件
定例会	平成 24 年 4 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> ・町児童生徒就学援助費支給要綱の一部改正 ・人事案件（特別支援教員補助者、幼稚園臨時教諭、学校評議員、公民館分館長ほか1件） ・町招致外国人青年任用規則の制定 ・教育委員会行政組織規則の一部改正 ・公民館の設置及び管理条例の一部改正ほか1件
定例会	平成 24 年 5 月 23 日	<ul style="list-style-type: none"> ・人事案件（社会教育委員、協働教育プラットフォーム運営協議会委員） ・町教育委員会マイクロバス使用管理規程の一部改正 ・放課後子ども教室実施要綱の制定ほか2件
定例会	平成 24 年 6 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> ・人事案件（幼稚園臨時教諭、学校給食センター運営委員、外国語指導助手ほか1件） ・教育委員会行政組織規則の一部改正ほか2件
臨時会	平成 24 年 7 月 12 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度使用教科用図書の採択計画
定例会	平成 24 年 7 月 30 日	<ul style="list-style-type: none"> ・町奨学資金貸与条例の一部改正ほか2件
定例会	平成 24 年 8 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> ・人事案件（特別支援教員補助者）
定例会	平成 24 年 9 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> ・人事案件（特別支援教員補助者、幼稚園臨時教諭） ・町奨学資金貸与規則の一部改正ほか3件
定例会	平成 24 年 10 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> ・人事案件（町心身障害児指導審議会委員ほか2件）
定例会	平成 24 年 11 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> ・町心身障害児指導審議会診断結果の具申
定例会	平成 24 年 12 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> ・町立学校の管理に関する規則の一部改正 ・町体育指導員被服貸与規程の一部改正 ・町幼小中学校一貫教育推進協議会設置要綱の一部改正ほか8件
定例会	平成 25 年 1 月 25 日	<ul style="list-style-type: none"> ・人事案件（社会教育主事） ・平成 25 年度町教育基本姿勢及び基本方針 ・町立学校の通級実施要綱の一部改正
定例会	平成 25 年 2 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> ・人事案件（幼稚園長） ・公民館の設置及び管理条例の一部改正 ・町立学校の区域外就学取扱要綱の制定ほか3件
定例会	平成 25 年 3 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> ・人事案件（学校評議員、特別支援教員補助者、幼稚園臨時教諭） ・町招致外国人青年任用規則の一部改正ほか1件

IV 教育重点施策等の点検・評価

1 学校教育の充実

(1) 幼児教育（幼稚園）

教育重点施策1 「保育園と一体化した教育の推進」

平成24年度実施状況

○「大郷町の幼児を保育する」という共通認識のもと、幼稚園と保育園が同じ「めざす幼児像」を掲げ、両園の特質を生かしながら合同保育に取り組んでいる。

【めざす幼児像】

・ じょうぶな子ども ・ なかよくあそぶ子ども ・ がんばる子ども

【交流活動】

○合同行事・・・①幼年消防クラブ任命式・巡回指導 ②夏まつり
③避難訓練（不審者侵入、火災、地震、通報訓練など）

○年長児交流保育・・・「すくすくタイム」

- ・ 年4回。ゲーム・合唱、劇の発表見学・運動遊びなど
- ・ 両園の担任が話し合い、ねらい・内容・留意点・準備物などを検討、実施。



赤勝て白勝て！ 玉入れ競争（幼稚園運動会）

評 価

○夏まつりは保護者も参加しての親子合同行事である。短い時間ではあるが両園の保護者同士が交流を図り、親睦を深めるよい機会になった。

○年長児は交流活動後、互いの活動に興味を示し、声を掛け合うようになった。

課題と今後の取組

○年長児交流保育年間計画の立案。（幼稚園・保育園職員の共通理解と認識。）

○教師が計画した活動だけでなく、年齢の枠を取り払い、幼児同士が自然に交流できるような働きかけの工夫や環境の設定に努める。

教育重点施策2 「学びの連続性を踏まえた教育の推進」

平成24年度実施状況

- 小学校への円滑な接続を可能にし、幼稚園教育の成果が引き継がれるために。
 - ・話を聞く姿勢、自分の思いを言葉で表現する、友達と協力するなど、日々保育の中で指導し、態度の育成や意識の向上に努めた。
 - ・小学校との連携・・・幼児の小学校訪問、一日入学、幼・小運動会への参加、など
- 幼稚園と家庭との生活の連続性を踏まえるために。
 - ・計画的な参観日の設定。連絡ノート、各「便り」を利用しての情報交換。
 - ・園活動や行事についてアンケートをとり、ニーズに応えられるように検討した。

評 価

- 小学校訪問では、小学生にお世話してもらったことで、憧れや感謝の気持ちが生まれた。また、学校探検や1年生の授業参観は、就学への希望や期待が膨らみ、意欲の向上につながった。
- 連絡ノートの活用は、園や家庭での様子を知ることができ、保護者とをつなぐパイプになった。細やかな連絡のやり取りが信頼関係を深めるために大切である。

課題と今後の取組

- 小学校が遠いため連携しにくい状況にある。幼稚園から小学校に円滑な接続を行うためには、交流活動実践方法の検討と職員同士の情報交換などが必要である。

教育重点施策3 「特別支援教育の充実」

平成24年度実施状況

- 幼児の障害・発達の理解と、指導計画の立案、指導実践。
 - ・職員を増員し、保健師や臨床心理士などと連携し、指導助言を受け個別支援を実施。
 - ・児童相談所の発達相談に同行し、保護者と共に個別支援方法を教わる。
 - ・支援カードの作成と支援記録簿の検討・作成。
 - ・宮城県総合教育センター主催の特別支援研修会への参加。

評 価

- 特別支援教育職員の配置により、幼児に応じた支援を発達やねらいを考慮しながら丁寧に行うことができた。
- 研修や情報交換から、特別支援のあり方、環境構成と教材の工夫などを学び、実践に生かすことができた。

課題と今後の取組

- 保護者、関係機関との連携を緊密にし、一人一人に応じた支援ができるようにする。
- 研修を積み重ね、職員の資質向上に努める。

教育重点施策4 「人・歴史・文化との触れ合いの推進」

平成24年度実施状況

- 地域の方々と触れ合い、「大郷町」への信愛の気持ちを高める。
 - ・「道の駅おおさと」での買い物体験を通して、地域の人と触れ合い、言葉による伝え合いの楽しさを知る。
 - ・地域の方々による「絵本の読み聞かせ」を見たり聞いたりする。
 - ・りんご園でりんご狩りを行い、地場産品を知り親しむ。

評 価

- 「道の駅」での買い物体験は、地場産品を知り、地域の方々と接するよい機会となった。また、お金を遣うことによって金銭教育にも役立ち、お金のありがたさを実感することができた。
- 「絵本の読み聞かせ」はいろいろな話に親しむことができ、安心感や想像力を高めることができた。

課題と今後の取組

- 幼児へ啓蒙を図るために、職員が大郷町の人・文化・歴史を深く知る必要がある。
- 幼児がわかりやすく理解できるため、教材準備や環境構成の工夫が必要である。

教育重点施策5 「教職員の資質の向上」

平成24年度実施状況

- 多様性と関連性を踏まえた指導力の向上をめざした職員研修の充実
 - ・宮城県金融広報委員会より金銭教育研究校として指定を受け研修に努めた。
(研究テーマの決定：「物やお金を大切に作る心を育てる保育」
保育実践と反省の積み重ね、講師を招いての保育実践研修、講演会参加など)
 - ・各種、研究会や研修会へ参加し、共通理解と認識を深めるため伝講会を行った。

評 価

- 園内研修会を繰り返し行うことにより、研修のねらい、指導の手立てが明確となり実践と反省を積み重ねることで、幼児への啓蒙も図られた。少しずつではあるが、「物を大切に扱うこと」「限りある材料を有効に使うことなど」が身についてきた。
- 研究会や研修会へ参加したことで、具体的な実践方法について学ぶことができた。

課題と今後の取組

- 金銭教育は幼児だけでなく、保護者への啓蒙も必要である。家庭と連携して意識改革をしていくことに努める。
- 実践能力・指導力向上のため、教師の意識向上と実行力が求められる。そのために、多様な研修会に積極的に参加する。

教育重点施策6 「関係機関との連携強化」

平成24年度実施状況

- 防災・安全指導。
 - ・不審者対応避難訓練、交通安全教室（年1回）・・・大和警察署（大松沢駐在所）
 - ・火災、地震、通報避難訓練（毎月）、AED研修・・・黒川消防署（大郷出張所）
 - ・引き渡し訓練・・・保護者
- 特別支援指導・・・宮城県総合教育センターでの研修、教育相談
- 職員研修・・・指導主事訪問（仙台教育事務所）、研修・講演（金融広報委員会）

評 価

- 防災・安全指導は、あらゆる災害を想定して避難訓練を実施した。幼児の防災意識も高まり、災害によって避難方法が違うことも身についた。
- 各機関と連携を図ることにより、安心して保育に取り組むことができた。教育効果も高まり、一定の成果をあげることができた。

課題と今後の取組

- 安全指導では、通園バス運行時に事故や地震が起きたときの対応や避難方法の訓練が必要である。
- 不審者対応避難訓練はいろいろな場面での侵入を想定して、多方面から考えた訓練が必要である。
- 特別支援指導職員は、指導の効率と成果をあげるため、今後も必要である。

教育重点施策7 「教育環境、施設・設備の充実」

平成24年度実施状況

- 保護者のニーズに応え、一時預かり保育に加えて、通年の預かり保育を実施。
 - ・預かり保育室の設置・・・畳・机・イスの補充
 - ・預かり保育時間の延長・・・朝預かりの実施。夕方17時までから、19時まで延長。

評 価

- 通年の預かり保育を実施したことにより、就労している保護者は預けやすくなり、助かっているようである。

課題と今後の取組

- 専任の預かり保育担当職員の配置。
- 預かり保育の反省と見直し。

(2) 義務教育 (小学校)

教育重点施策1 「特色と活力に満ち信頼される学校教育の推進」	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域の協働による学校づくりの推進 ・特別支援教員補助者の配置 	
平成24年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・協働教育推進のため、学校支援員が週2日来校し、地域人材の活用や地域素材について連絡調整に当たっていただき、全学年で多くの皆さんが支援していた。 ・教員補助者を5名配置していただき、1年生3クラス、2年生等の配慮を要する児童の支援に当たることができた。 	
評 価	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校農園の整備、サケの体験学習、米作り、読み聞かせ、ミシンの指導補助等、児童が学習する際のねらいを達成することができた。 ・教員補助者が支援を要する児童へ個別に対応し、学習に集中することができた。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・年々、支援を要する児童が増えている。今後も支援を要する児童が早期に学校生活に慣れ、適応できるよう教員補助者の配置が必要である。 	

教育重点施策2 「幼・小・中一貫教育の充実」	
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの特性の理解と、個に応じた継続的指導の推進 ・子どもの校種間交流の推進 	
平成24年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・就学前に一日体験入学を設けている。中学校と小学校卒業生の引き継ぎを行った。 ・大郷小学校の運動会では、次年度入学する園児の参加種目を設け、逆に大郷幼稚園大郷保育園では運動会に小学1年生が参加して交流を図った。 ・大郷町生涯学習フェスティバルへ全員参加により、幼・小・中の児童・生徒の交流を図った。 	
評 価	
<ul style="list-style-type: none"> ・未就学児童へ小学校への期待感を持たせることができた。また、児童の特性理解に役立った。中学校でも生徒理解に役立った。 ・町生涯学習フェスティバルで幼・小・中の児童・生徒が互いに発表を聞き、交流が図られ、互いの理解につながった。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中の活動で、より子どもの理解が図れるよう、緊密な連携が必要である。 	

教育重点施策3 「豊かな人間性と生きる力の育成」

- ・心が響きあう人間関係の樹立
- ・学校不適応児童・生徒への指導充実

平成24年度実施状況

- ・統合1年目、学級内の人間関係が円滑に樹立できるよう、学級内での居場所づくりや役割を持たせた当番活動等の指導を行った。また、全校縦割り組織を編制し、異学年児童での活動も取り入れた。
- ・学級で発達課題を抱えている児童のために、通級指導教室でSST等の対人関係の指導を行った。

評 価

- ・統合前の4校で過ごした児童が戸惑いながらも各学級内で役割をもちながら関係を構築した。
- ・多くの児童が、通級指導で人との関わりを学び生活で実践に結びつけることができた。

課題と今後の取組

- ・よりよい人間関係を築くためにより客観的な調査やその実態に応じて具体的な取組を計画的に進める。

教育重点施策4 「確かな学力の向上」

- ・少人数指導の充実
- ・宮城教育大学との連携による、課外指導の充実

平成24年度実施状況

- ・統合前小規模校で過ごしていた児童がークラス30名以上に増え戸惑いを感じないよう少人数指導を取り入れた。
- ・長期休業中にサマースクール・ウィンタースクールを実施し、大学生のボランティアによる課外指導を行った。

評 価

- ・通常の学習より少人数学習が落ち着いて個に応じて指導できるため、態度や理解度がよかった。
- ・自ら学ぶ機会を設け、大学生ボランティアの協力を得て、児童の学習意欲を高めることができた。

課題と今後の取組

- ・統合による学級人数増加による児童負担を減らすよう少人数指導の継続、充実を図る。
- ・児童の主体的学習を促すために家庭学習とサマースクール等の機会の充実を図る。

教育重点施策5 「確かな体力の育成」

- ・個の体力に応じた運動量確保の指導計画作成と実践
- ・学校環境を生かした体力づくり計画作成と実践

平成24年度実施状況

- ・体育部を中心にスポーツテストの結果からデータを分析し、実態を把握する。
- ・業間、昼休みに児童が運動に親しんだり、遊んだりすることができるよう長い時間を確保する。

評 価

- ・統合後、全児童の体力の状況が把握できた。
- ・業間休み時間には、遊具で遊ぶ下学年児童が多く見られ、運動に親しむことができた。

課題と今後の取組

- ・スポーツテストの調査結果から、どの学年も走力に課題が見られた。走力向上への取組が必要である。

教育重点施策6 「特別支援教育の充実」

- ・障害・発達の状況に応じた指導計画の立案と実践
- ・普通学級・地域との交流推進

平成24年度実施状況

- ・障害種ごとに指導計画、個別の指導計画を立案し、実践を行った。
- ・協力学級とは、体育・音楽・図工を中心に交流学习を行い、郷の子学級内での合同学習も行った。
- ・大郷町生涯学習フェスティバルに特別支援学級の児童で編成した演奏を行った。

評 価

- ・郷の子のクラスが連携し、障害種を越えた児童理解や対応で指導支援を行うことができた。
- ・生涯学習フェスティバルでの演奏を地域の方にも聞いていただいた。

課題と今後の取組

- ・特別支援教育について一層の理解を促すため、今後とも全保護者への啓発が必要である。

教育重点施策7 「魅力ある教育環境の整備」

- ・安全で信頼される教育環境の整備
- ・地域の教育力を生かした学習環境の創設

平成24年度実施状況

- ・毎月、全職員で施設・設備の点検を実施している。改修・補修できる事は職員で行うが、できない事は教育委員会へ報告し、修理を依頼している。
- ・学校支援ボランティアを活用し、地域の教育力を生かした特色ある活動を実践した。

評 価

- ・適宜、修理や報告を行っている。
- ・多くのボランティアが来校し、指導や支援していただいた。

課題と今後の取組

- ・児童の実態を基に、地域の教育力をどんなところに活用するか全職員の共通理解のもと進めていく必要がある。

教育重点施策8 「教職員の資質向上」

- ・多様で特色ある教育実践が可能な指導力向上を図る研修の充実
- ・使命感の高揚と実践能力の向上を図る研修の充実

平成24年度実施状況

- ・校内研究では全員が授業を行い、ワークショップ型の討議を行うことで、教員の指導力向上に努めるとともに校内研究の活性化を図った。
- ・校外で実施される公開研究会・研修会へ積極的に参加を促すとともに、参加した職員から研修内容の伝講会を開催した。

評 価

- ・参加型の授業検討会を行うことにより、教員の年齢・経験を問わず授業について検討することができた。
- ・研修に参加した職員から、伝講を受け、参加していない職員と研修内容の共有ができた。

課題と今後の取組

- ・学校課題に合わせて、その指導にふさわしい外部人材の活用等も視野に入れ、教員の指導力向上に努める必要がある。

(3) 義務教育（中学校）

教育重点施策1 「特色と活力に満ち信頼される学校教育の推進」
<ul style="list-style-type: none">・学校・家庭・地域の協働による学校づくりの推進・町主催行事への参加・地域文化と触れ合う行事の推奨と支援
平成24年度実施状況
<ul style="list-style-type: none">・運動会や学校コンクールは保護者、地域の方々へ案内を出し、町内1校として、地域の行事としての側面も持たせた。・生涯学習フェスティバル、おおさと夏祭りへの生徒の参加を支援した。
評 価
<ul style="list-style-type: none">・公開している行事には、多くの保護者、地域の方々に参加してもらい、教育活動の成果を見てもらった。
課題と今後の取組
<ul style="list-style-type: none">・授業参観については、学年・学級懇談会への参加者が少ないのが課題となっている。内容の工夫をするなど、今後とも参加者を増やす努力を続けたい。

教育重点施策2 「幼・小・中一貫教育の充実」
<ul style="list-style-type: none">・子どもの特性の理解と、個に応じた継続的指導の推進・教員が他校種の指導内容を理解する研修の充実
平成24年度実施状況
<ul style="list-style-type: none">・新入生を迎えるにあたり、新入生保護者説明会、小学校担任との引継の場を設置した。・町内幼稚園・小学校の指導主事訪問や校内研修の参観を推進した。
評 価
<ul style="list-style-type: none">・情報を共有することによって、円滑な接続が図られた。・他校種の指導の在り方について理解が深まった。
課題と今後の取組
<ul style="list-style-type: none">・引継時だけでなく、定期的な情報交換ができると、より効果的である。・授業の参観だけでなく、検討会へ参加できれば、より研修が深まると考えられる。

教育重点施策3 「豊かな人間性と生きる力の育成」

- ・生きる力を高める道徳教育の充実
- ・心が響きあう人間関係の樹立

平成24年度実施状況

- ・別葉の作成と年間指導計画の見直しを行った。
- ・Q-U調査を実施し、結果の分析を学級づくり・教科指導に活用した。

評 価

- ・学校の諸活動を道徳の価値項目に基づいて見直し、年間計画に反映させることができた。
- ・Q-U調査の分析結果を学習指導案に反映させ、効率的なグループ学習が実践できた。

課題と今後の取組

- ・単位時間の道徳の授業の充実と資料の累積が来年度の課題である。
- ・行事等における学級・学年集団のまとまりを、普段の生活にも反映させることが課題である。

教育重点施策4 「確かな学力の向上」

- ・個の能力に応じた指導の工夫と実践
- ・保護者との連携を強化し、学ぶ意欲の高揚と家庭学習の推進

平成24年度実施状況

- ・学習評価の研修を深め、個々の学習状況をきめ細かに見取り、すべての生徒を十分満足できる状態に高めるための手立てを工夫し、授業を実践した。
- ・定期テスト前に「家庭学習推進期間」を設定し、家庭学習の定着を図った。また、家庭訪問や三者面談を活用し、個別の学習の目標を具体的に共有した。

評 価

- ・評価方向と見取りについて研修を深め、指導と評価の一体化が意識されるようになった。
- ・テスト前の家庭学習について、家庭の理解と協力を得ることができた。

課題と今後の取組

- ・授業で定着が不十分だった生徒に対する放課後などの指導時間の確保が難しい。
- ・普段の家庭学習の習慣がなかなか定着しない。

教育重点施策5 「確かな体力の育成」

- ・個の体力に応じた運動量確保の指導計画作成と実践
- ・食育指導の充実

平成24年度実施状況

- ・スポーツテストの結果に基づき、保健体育の授業、部活動の時間を中心に、意図的に体力の向上を図った。
- ・給食委員会を中心に、「黙々配膳」「残食0」などを給食の目標として、食に対する意識を高めた。

評 価

- ・駅伝大会の練習に参加する部が増えるなど、体力向上への意識が高まってきた。
- ・落ち着いた状態で準備をし、食べ物を大切に食事をする事ができた。

課題と今後の取組

- ・運動部以外の生徒について、運動量確保のための手立てが必要である。
- ・今後、栄養士と連携し、食材や調理に関する内容についても指導していきたい。

教育重点施策6 「特別支援教育の充実」

- ・普通学級・地域との交流推進

平成24年度実施状況

- ・技能教科、総合的な学習の時間は、協力学級で学習を行っている。行事については、可能な限り協力学級の一員として参加できるよう配慮した。

評 価

- ・協力学級での学習、活動を通して人とかかわる力が育ってきた。

課題と今後の取組

- ・平成25年度は、特別支援学級が3学級8名の構成になるので、交流の際の支援に係る人員の確保などを考慮する必要がある。

教育重点施策7 「魅力ある教育環境の整備」

- ・安全で信頼される教育環境の整備

平成24年度実施状況

- ・毎月20日に安全点検を実施し、危険箇所の把握を行い、校内で補修・整備ができない部分は教育委員会に報告した。
- ・生徒下校時には、職員が分担で下校指導を行い、安全に配慮した。

評 価

- ・教育委員会への報告に基づき、速やかな対応がなされている。

課題と今後の取組

- ・駐車場が狭いので、特に下校時の車の混雑には危険を感じている。

教育重点施策8 「教職員の資質向上」

- ・多様で特色ある教育実践が可能な指導力向上を図る研修の充実
- ・使命感の高揚と実践能力の向上を図る研修の充実

平成24年度実施状況

- ・校外への研修会への積極的な参加を推進するとともに、成果を共有するための伝講会を実施した。
- ・教員を2グループに分け、グループごとに授業構想から話し合い、校内における授業研究を実践した。

評 価

- ・栗原地区の小中一貫教育や秋田県の学力向上シンポジウムに参加し、成果を共有することができた。
- ・グループごとに研究授業の準備を行い、授業意図の理解が深まったため、検討会を活性化することができた。

課題と今後の取組

- ・研修センター主催の研修会への参加者は0であった。より多くの教員が研修できるよう配慮していく必要がある。
- ・授業力向上のため、校内授業研究の回数を増やすことを検討していきたい。

(4) 学校給食

重点施策1 「安全でおいしい給食の提供」

平成24年度実施状況

- ・学校給食用食材の放射能測定検査を実施し、町のホームページで情報を公開した。
- ・地場農産物や旬の食材を活用した献立の工夫や、子どもたちの要望を取り入れたリクエスト給食を実施した。



学校給食メニューの一例

・メニュー

ごはん
夏野菜カレー
切り干し大根のサラダ
冷凍りんご

・地場産品

ごはん
なす
玉ねぎ
きゅうり
じゃがいも

評 価

- ・放射能測定検査の結果を公表することで、食材の安全性について情報を共有することができた。
- ・新鮮な地場農産物等の活用や子どもたちの要望を取り入れることで、魅力ある給食を提供することができた。

課題と今後の取組

- ・放射能測定検査については、保護者等の食材に対する安心を高めるために、継続して取組む。
- ・継続した地場農産物等の活用を図るとともに、調理等の工夫や子どもたちの要望も取入れながら、おいしい給食の提供に努める。

重点施策2 「食育の推進と関係機関との連携」

平成24年度実施状況

- ・栄養士が幼稚園、小学校、中学校を訪問し、給食時の子どもたちの様子の把握や給食に対する理解を得るための活動を行った。
- ・給食運営委員会や給食主任者会、地場農産物利用推進委員会を開催した。



大郷幼稚園（年長）での学校訪問の様子

評 価

- ・栄養士が学校を訪問することで、子どもたちの給食の様子を把握することができた。
- ・各種会議を開催することで、給食運営に対する貴重な意見や情報の共有化を図ることができた。

課題と今後の取組

- ・学校における食育の「生きた教材」となる学校給食の充実を図るため、今後も関係機関の連携と情報の共有化を推進していく。

重点施策3 「学校給食施設・設備の整備・充実」

平成24年度実施状況

- ・学校給食従事者専用トイレが和式トイレであったことから、衛生面を考慮し男女1箇所ずつ洋式トイレに改修した。
- ・学校給食の提供に支障がないよう、空調設備保守点検など設備の保守点検を行った。

評 価

- ・和式トイレから洋式トイレへの改修で、衛生面の向上が図られた。
- ・定期的な保守点検で、給食提供に支障のない設備運営ができた。

課題と今後の取組

- ・学校給食センターは、建設後15年が経過しており、施設・設備の老朽化が懸念される。衛生管理を充実させるためにも今後計画的な整備を図っていく。

2 生涯学習の推進

(1) 社会教育の充実

教育重点施策1 「社会教育の活性化」

平成24年度実施状況

- ・町民の学習成果の発表の場として、第17回生涯学習フェスティバルを10月27日（日）に開催した。フェスティバルには、幼稚園・保育園・小学校・中学校の全児童生徒のほか、文化協会加盟団体など10団体が出演した。作品展示の部では、公民館各種講座などで制作した作品の展示が行われた。
- ・協働教育プラットフォーム事業は、コーディネーターや支援ボランティアの協力のもと、次の事業を実施した。

事業名	内容	人数
家庭教育支援	子育て支援チーム「ぽっかぽか」講座 家庭教育学級「みんなともだち」 教育（学校）セミナー	参加者約500名
学校教育支援	学習支援10回、読み聞かせ4回、環境整備20回、登下校安全指導200回	ボランティア 970名
地域教育支援	世代間交流事業、インリーダー活動支援、 自然体験活動	参加者355名

「みんなともだち
ミニ運動会」



ずんだ団子作り

評価

- ・平成24年度の生涯学習フェスティバルでは、幼・小・中すべての児童生徒が参加するなど、より多くの町民が日頃の学習の成果を発表することができた。
- ・協働教育プラットフォーム事業の実施により、家庭・地域・学校をつなぐ仕組みがつけられ、協働による教育活動を通じて、家庭・地域の教育力の向上が図られた。

課題と今後の取組

- ・町民が生涯を通じて、いつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができる「生涯学習のまち」を築くため、町民の生涯学習ニーズ把握に努めるとともに、魅力ある社会教育事業を展開する必要がある。

教育重点施策2 「芸術・文化活動の推奨」

平成24年度実施状況

- ・小学生を対象とした「音楽アウトリーチ事業」並びに中学生を対象とした「青少年劇場」を実施した。

事業名	内容	参加者数
音楽アウトリーチ事業	和太鼓鑑賞	小学生396名
青少年劇場	チ・ブルグット馬頭琴コンサート	中学生187名

- ・平成24年度は、黒川郡文化協会発表会が大郷町文化会館で開催された。芸能発表や作品展示などが行われ、大勢の方々が大郷町を訪れた。
- ・町文化協会や町民演劇「おおさと夢劇団」に補助金を交付し、町民の豊かな文化活動を支援した。(文化協会18万円、町民劇場45万円)
- ・第11回目となる町民劇場は、12月2日(日)、「ふるさと おおさと えにしのさと」と題して公演した。



町民劇場は、毎回大郷の良さを掘り起こして町内外に発信している

評 価

- ・「音楽アウトリーチ事業」や「青少年劇場」などの事業を通して、児童生徒に優れた芸術文化を身近に観賞できる機会を提供することができた。
- ・町民劇場は、今年度で第11回目の公演を迎えるなど、町民手づくりの演劇として、町内外から高い評価を得ている。
- ・町文化協会加盟団体は、前年度より2団体多い30団体を数えるなど、年々増加傾向にあり、町民の芸術文化活動が盛んに行われている。

課題と今後の取組

- ・町民劇場が継続して公演活動ができるよう、今後も支援・協力を行っていく必要がある。

教育重点施策3 「家庭及び地域の教育力向上と活性化」

平成24年度実施状況

- ・協働教育プラットフォーム事業の一環として、家庭教育学級「みんなともだち」を年5回実施し、延べ65名の参加を得た。また、子育て支援チーム「ぼっかぼか」を年3回実施し、延べ53名の参加を得た。同じく、食育実践事業として、幼稚園では「すくすく農園」でさつま芋植えやりんご狩りなどを行い、小学校では大豆の収穫や焼き芋体験などを実施した。
- ・放課後子ども教室（郷子舎）事業は、大郷小学校の全児童を対象にして希望者を募り、年間43回実施し、延べ1,309名の児童が受講した。
- ・平成24年2月、大郷町と宮城教育大学は、児童生徒の学力向上や教員の研修などに関する連携協定を締結した。これを受け、初年度は、「サマースクール・ウィンタースクール」を開講し、計7日間で延べ1,022名の児童生徒が受講した。



宮城教育大学の協力を得て学力向上を図ります（ウィンタースクール）



郷子舎で温かい雰囲気の中、勉強する児童

評

価

- ・協働教育プラットフォーム事業において家庭教育事業を実施することができた。食育実践事業では、農業を通して作物の成長の様子に関心を持たせることができた。また、自然の恵みに感謝し、収穫の喜びを味わうことができた。
- ・放課後子ども教室事業では、地域の方々の協力のもと、放課後、子どもたちが安心して学習やさまざまな体験ができる活動場所を提供することができた。
- ・宮城教育大学との教育連携事業により、児童生徒の学力向上に努めた。

課題と今後の取組

- ・協働教育プラットフォーム事業や放課後子ども教室事業は、平成26年度以降も国・県の補助事業が継続されるか未定であるが、町教育委員会事業として継続していき、家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくりの推進を目指していく。

教育重点施策4 「青少年教育の充実」

平成24年度実施状況

- ・宮城県ジュニアリーダー研修会に中・高生5名を派遣した。
- ・10月7日（日）、町子ども会育成会主催の第15回チャレンジランキング大会がフラップ大郷21で開催され、未就学児を含む町内の267名の子どもたちが参加した。
- ・町子ども会育成会は、町内23の地区子ども会で組織されており、運営費補助として8万円を交付した。
- ・青年の自主的な地域活動を支援するため、活動拠点のなかった黒川郡連合青年団に平成24年度から粕川社会教育センターの一角を無償貸与した。また、町青年団に対し、補助として5万円を交付した。



チャレンジランキングで「豆つまみ」に挑戦

評 価

- ・ジュニアリーダー研修を通し、地域子ども会の中核となるリーダーの養成を図った。
- ・青年団は、地域活動の一環として、今年度も「くろかわチャリティーコンサート」を開催し、その収益金を児童生徒の教育振興のために郡内4町村教育委員会に寄付した。

課題と今後の取組

- ・ジュニアリーダーの育成支援を引き続き実施していくと同時に、広域（仙台管内・県）各種研修会への参加促進を図っていく。
- ・全国の青年団員数は時代とともに減少しており、青年層の青年団離れと地域離れが同時に起こっている。青年が地域の担い手となり、地域づくりの原動力となるように、青年団組織の育成強化を図っていく必要がある。

(2) 公民館事業の推進

教育重点施策1 「学習意欲が高まる魅力的な環境の整備」

平成24年度実施状況

※平成24年度中央公民館の利用状況

利用区分	回数	利用人数	備考
公民館主催事業	65	1,070名	
社会教育団体	243	2,274名	
行政機関	52	2,665名	
行政育成団体	26	813名	
スポーツ育成団体(体協・スポ少)	3	70名	
一般団体	148	1,607名	
合計	537	8,499名	

評 価

- ・公民館は、住みよい地域をつくるための情報交換の場として、個人やグループが自由にくつろいでいただける地域の”茶の間”であり、知識や教養を身につけ仲間づくりをするふれあいの“館”であることから、安全で安心かつ快適に利用しやすく親しまれるよう維持管理に努めた。

課題と今後の取組

- ・経年劣化が進むにつれ、維持管理等が大変な現状にあり、施設の更新も視野に入れ、安全かつ安心して各世代のライフステージに即した多様な学習機会を提供する施設として、有効に利用できるよう整備及び維持管理に努める必要がある。



大郷町中央公民館

教育重点施策2「ライフステージを踏まえた事業の発展と継続的活動の促進」

①少年教育の推進

平成24年度実施状況

*「YOU・遊・通信」発行

実施時期	内 容	配布対象
随 時	<ul style="list-style-type: none"> ○新刊図書の紹介 ○おすすめ図書の紹介 ○読書活動の啓蒙 ○図書室の利用の仕方 ○公民館事業等の紹介 	町内小学生及び 幼稚・保育園児等

評 価

- ・読書活動の啓蒙と児童が参加可能な公民館講座に関する情報提供に努めた。

課題と今後の取組

- ・継続的に発行して、図書室利用や公民館事業への関心を高める情報の提供をしていく必要がある。

教育重点施策2「ライフステージを踏まえた事業の発展と継続的活動の促進」

②青年教育の推進

平成24年度実施状況

*成人式の実施

実施時期	内 容	対 象 者
平成25年 1月13日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ○式典と記念撮影及びアトラクション (内容は運営委員会を組織し決定する) ※運営委員会開催回数 5回実施 	H4.4.2 ~ H5.4.1 出生者 85名

評 価

- ・新成人の門出を祝福し、時代を担う心構えと勇気を喚起させるための新成人者による成人式の実施に努めた。

課題と今後の取組

- ・新成人者で組織する運営委員会の充実を図り、時代を担う心構えを確かなものにする成人式の実施が必要である。

教育重点施策2「ライフステージを踏まえた事業の発展と継続的活動の促進」

③公民館教室の開設推進

平成24年度実施状況

* 高齢者教育の推進（ハツラツ倶楽部）

- ・ 高齢者の皆さんが、健康で明るく豊かな人生を過ごすための生きがいを見つけるきっかけづくりとなるための学習会を下記内容で実施した。

実施時期	内 容	参加者数
5月25日（金）	第1回 講話『笑い与健康』・笑いの実演	45名
6月13日（水）	第2回 講話『今こそ、皆さんの出番です』	31名
7月20日（金）	第3回 講話・実技『脳トレエキササイズ』	37名
9月28日（金）	第4回 創作『転写紙を用いた磁器の皿の絵付』	30名
10月12日（金）	第5回 移動学習『さわやかな自然の中で』	26名
11月 9日（金）	第6回 実技『いろんなリズムでヘルシーダンス』	32名
12月14日（金）	第7回 講話『健康・長寿は学びと笑顔から』	32名



まさに笑いこそが健康の
秘訣です

* 婦人教育の推進（マ～どんな倶楽部）

- ・ 現代女性としての知識と教養を高め、婦人相互の交流と明るい家庭づくりを図るための学習会を下記内容で実施した。

実施時期	内 容	参加者数
5月16日（水）	第1回 講話『若さを保つ免疫力のUPの食事』	29名
6月13日（水）	第2回 講話『今こそ、皆さんの出番です』	28名
7月11日（水）	第3回 実技『きれいアップ講座』	29名
9月12日（水）	第4回 創作『世界にひとつだけの陶芸品』	20名
10月17日（水）	第5回 実技『フラダンスで健康美人』	23名
11月 7日（水）	第6回 移動学習『テーブルマナーを学んで上品に』	20名
12月12日（水）	第7回 講話『地域づくりと女性のパワー』	24名



世界に一つだけの作品を！（陶芸教室）



あなたもフラダンスで健康美人に！

評

価

- ・多様化する町民の学習ニーズに応え、公民館定期講座として2講座（ハツラツ倶楽部・マ〜どんな倶楽部）を開設し、生涯を通じる教養等幅広い学習内容での年次計画を立て、地域でいろいろな機会に情報提供できるような方向で学習に臨むよう声掛けをするなどをして実施した。
- ・2講座の受講者においては、固定化や高齢化傾向が見られることや男女を対象としたハツラツ倶楽部の受講者が女性だけで、男性受講者がほとんどない状況であった。

課題と今後の取組

- ・公民館の定期講座は、継続的に計画実施してきた事業であり、今後も幅広い学習内容を検討し、高齢者の生きがいづくり支援、知識・技術及び経験を積極的に社会に役立てる方策のための学習、あるいは、男女共同参画社会の実現に資すべく、その意識高揚の役割も併せ持つような学習内容、女性のニーズに対応した学習内容等を検討することが必要である。
- ・受講者の固定化や高齢化傾向等を解消するためのコースの設定等を検討する必要がある。

教育重点施策2「ライフステージを踏まえた事業の発展と継続的活動の促進」

④趣味・教養講座等の開設推進

平成24年度実施状況

*磁器のかんたんアート教室

- ・転写紙を用いた簡単な手法での絵付け作業によるオリジナルの作品作りを楽しみ、趣味・余暇活動の幅を広げるきっかけとなることをねらいとして実施した。

実施時期	内 容	参加者数
5月30日(水)	第1回 基本的な転写紙の貼り方・扱い方『小さな器』	8名
6月13日(水)	第2回 『ペアのカップ&ソーサー』	7名
7月11日(水)	第3回 『フルーツコンポート』	8名

*季節を彩る草花のアレンジ教室

- ・草花を使って自分なりにアレンジする手法を学び、趣味・余暇活動の幅を広げたり、家庭生活の充実感を高めたりするきっかけとなることをねらいとして実施した。

実施時期	内 容	参加者数
6月13日(水)	第1回 -ブザアレンジの基本とともに-『モスクーゲル』	11名
9月26日(水)	第2回 『ハロウィンのアレンジ』	7名
12月19日(水)	第3回 『お正月のアレンジ』	11名

*楽しく健康! ラッキー☆健康体操教室

- ・身体の要である「骨盤」を中心に、骨格を意識しながら深層内筋を使った小さな動きで歪みを治し、身体機能の改善を図ることをねらいとした健康教室を実施した。

実施時期	内 容	参加者数
6月5日(火)	①肩コリとんでけ~!! 上半身コース(全4回) 体の歪みをなくし、コリ・痛みを改善する。	17名
6月19日(火)		18名
7月3日(火)		21名
7月17日(火)		17名
8月7日(火)	②腰痛改善 下半身コース(全4回) 体の歪みをなくし、コリ・痛みを改善する。	15名
8月21日(火)		15名
9月4日(火)		16名
9月18日(火)		14名

***キラリ☆度UP!教室**

- ・イメージアップにつながる身だしなみや動作・仕草のポイント・さまざまな場面に
応じたマナーを習得する機会を提供することをねらいとして実施した。

(実施時期)	内 容	参加者数
7月 7日 (土)	講話と実技 第1部 『イメージアップする身だしなみ・話し方』 第2部 『場面に応じたマナーのいろいろ』	10名

***たのしいエコ教室**

- ・身近な素材を使って楽しく、楽な方法でのエコ活動を体験しながら、エコロジーへ
の関心を高める機会を提供することをねらいとして実施した。

実施時期	内 容	参加者数
10月 3日 (水)	第1回 『重曹を使ってしゅわしゅわバスボム作り』	9名
11月17日 (水)	第2回 『重曹を使って万能クレンザー作り』	8名

***おもしろ工作体験教室**

- ・子どもから高齢者まで、家族・地域の方々と世代を超えて一緒に物を作る時間を持
つことにより、ふれあいと共通の話題、完成の喜びを共感し分かち合うことをねら
いとして実施した。

実施時期	内 容	参加者数
8月 1日 (水)	エッグクラフト教室 『たまごの殻を使ったかわいい小物作り』	45名
11月17日 (水)	モロヘイヤリース作り教室 『モロヘイヤの茎でクリスマスリース作り』	21名

評 価

- ・趣味・教養・健康等幅広い多種多様な講座を開設し、講座を通じての仲間づくりか
ら、サークル活動として成長できるように支援し、個々の資質の向上を目指した。
- ・子どもから高齢者まで、家族・地域の方々と世代を超えて一緒に物を作る時間を持
つことにより、ふれあいと共通の話題、完成の喜びを共感し分かち合える機会を提
供することをねらいとして実施した。

課題と今後の取組

- ・今後も各種多様な講座を開設し、老後の生活などライフステージに即した学習内容
の提供に努めるとともに、サークル活動として自主的活動ができるように努める必
要がある。
- ・共通な話題の中で異世代交流ができる講座や男性を対象とした講座の開設をする
とともに、サークルが自主活動するための情報等の提供が必要である。

教育重点施策3 「各種団体の活動支援」

平成24年度実施状況

実施時期	内 容
随 時	○町文化協会加入団体及び公民館を拠点として活動している団体・サークルへの助言援助 ○町婦人会連絡協議会活動の助言援助 ○地域コミュニティ（大松沢・ふれあいセンター推進協議会）組織の支援・援助

評 価

- ・町文化協会加入団体、公民館を拠点に活動しているサークル・グループなど、代表者を中心に会員相互の連携をもとに運営している団体に対して、活動助言や施設利用の援助を行った。
- ・婦人団体活動への指導助言、地域コミュニティ（大松沢・ふれあいセンター推進協議会）組織の自主的、積極的活動に対しての支援を図った。

課題と今後の取組

- ・各団体が自主的な活動運営ができるよう指導助言に努めるとともに、地域づくりを円滑にするための条件整備を図りながら継続して支援していく必要がある。

教育重点施策4 「出前事業の充実」

平成24年度実施状況

- ・今年度は、地域からの出前事業の利用申し込みはなかった。

評 価

- ・地区住民の自主学習を援助し活性化を図るねらいで、各分館長に働きかけ、地区単位あるいは行政区単位での実施の声掛けをしたが、震災等の影響などから実施できなかった。

課題と今後の取組

- ・人づくりと住みよいまちづくりを目指し、地区住民のニーズに応じた学習の機会の提供や自分たちの抱える問題解決策などを住民が自主的・主体的な活動に展開するための学習情報の発信・支援が必要である。

教育重点施策5 「指導者の充実」

平成24年度実施状況

* 読み聞かせボランティア養成講座

実施時期	内 容	参加者数
8月31日(金)	第1回 講話『はじめての読み聞かせ』	19名
9月14日(金)	第2回 講話・実技『読み聞かせにチャレンジ』	18名
10月11日(木)	第3回 実習『保育園・幼稚園での読み聞かせ』	22名
11月 2日(金)	第4回 講話・実技『おはなし会を楽しく』	22名

評 価

- ・本養成講座は県教育委員会と共催事業として実施したもので、「読み聞かせボランティア」として活動するために必要な基本的知識と技術を習得し、子ども読書活動の担い手の育成を行った。

課題と今後の取組

- ・町民のニーズに応じたいろいろな事業を展開する上で、必要な指導者（リーダー・ボランティア）の養成講座や受講修了者を対象に、スキルを発揮する機会や研修会等を開催する必要がある。

教育重点施策6・7

「地域に密着した活動推進と地域に根ざした分館活動の活性化支援」

①分館長会議及び活動支援

平成24年度実施状況

実施時期	内 容	備 考
随 時	○分館長会議の開催 ○各種事業への協力 ○各分館活動への活動費交付	

評 価

- ・公民館事業の連絡調整並びに町民へのPR活動や分館活動の活性化を図るために、分館長会議、分館長研修会の開催、黒川郡内分館長並びに分館協力員大会等へ参加するなど、公民館（分館）推進体制の充実強化に努めた。

課題と今後の取組

- ・各行政区の分館長としての役割はさまざまであるが、町民との連絡調整を図り、地域に根ざした公民館（分館）運営活動を行い、地域コミュニティづくりに努める必要がある。

教育重点施策 6・7

「地域に密着した活動推進と地域に根ざした分館活動の活性化支援」

②分館施設の整備充実

平成24年度実施状況

* 災害復旧事業実施分館

不来内分館・川内分館・土橋分館・木ノ崎分館・・・(災害補修工事)
山崎分館・・・(災害建替工事)
成田川分館・・・(災害移転新築工事)

* 耐震改修事業実施分館

鶉崎分館・土橋分館・木ノ崎分館・・・(耐震補強工事)

評 価

・東日本大震災により甚大な被害を受けた分館の災害復旧整備(平成23年度繰越事業)や耐震診断結果に基づき補強改修の必要な分館の整備を行った。

課題と今後の取組

・各分館施設は、各行政区のあらゆる活動の拠点であり、災害時における第1避難所としての役割を持った施設でもあることから、逐次、環境整備の充実を図っていく必要がある。

教育重点施策 8 「読書活動の充実」

①公民館内図書室の図書利用促進

平成24年度実施状況

* 公民館図書室の開放

月～金曜日(祝日を除く)は午前8時30分から午後5時まで
毎月第2・第4土曜日は午前8時30分から正午まで
(今年度の図書利用状況:利用者数1,954名・利用冊数4,559冊)

* 移動図書(出前図書室)

児童クラブ等へ図書の貸し出しを行った。

評 価

・町民への貸出し本を各分野・分類ごとに整理するとともに、町民の読書意欲が高まるような情報の提供、出前図書室(移動図書)などを実施した。

課題と今後の取組

・図書室の図書管理の利便性を向上させるために、次のことを検討する必要がある。

- 図書室開放時間の見直し
- 司書または図書業務専任職員の配置
- 図書選定基準等の設置
- 図書管理システムの導入及び図書室設備の充実

教育重点施策9 「読書活動の充実」

②子どもの本展示会とおはなし会の実施

平成24年度実施状況

*子どもの本展示会

本の展示実施時期	展示冊数	参加者数
第Ⅰ期 7月28日(土)～8月7日(火)	300冊	70名
第Ⅱ期 8月9日(木)～8月17日(金)	300冊	56名

*たのしいおはなし会

実施時期	内 容	参加者数
8月31日(金)	読み聞かせ・童謡・ハンドベル演奏を実施	45名
9月14日(金)	※読み聞かせサークル「どんぐりの会」	19名



思わず絵本の世界に引き込まれます

評 価

- ・宮城県図書館から平成23年度中に出版された児童書600冊を借用して、町民がより多くの児童書に触れる機会を設け、読書意欲が高まるよう開催した。
- ・子どもの本展示会期間中に読み聞かせサークル「どんぐりの会」の協力をいただき「おはなし会」を実施した。

課題と今後の取組

- ・読み聞かせサークル「どんぐりの会」の活動や本年度開催した読み聞かせボランティア養成講座等開催を通して、公民館図書室が今後違った形でも町民に活用していただけるような企画を考えていく必要がある。

(3) 社会教育施設

教育重点施策 1 「施設の整備・充実」	
平成24年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・町文化会館は、1階部分に研修室がなかったことから、利用頻度の低かった農産加工室を研修室に模様替えする改修工事を実施した。 ・町文化会館のホールが安全かつベストの状態で使用できるように、電動椅子・音響設備・舞台吊物・空調設備の保守点検を行った。 	
評 価	
<ul style="list-style-type: none"> ・町文化会館に研修室を設置したことにより、各種団体の研修や会議の場として広く活用されている。 ・社会教育施設と社会体育施設を一元管理するために、平成24年度から教育課に施設管理係を設置した。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度から大松沢と粕川の旧小学校を地域の社会教育センターとして活用している。しかし、両センターとも体育館以外の一般の利用状況は少ない現状にあることから、今後、施設の有効活用を図る方策を検討しなければならない。 ・町文化会館は、建築後28年が経過しており、外壁等の汚れなどが目につくことから、今後、塗装などの改修工事を実施する必要性がある。 	
教育重点施策 2 「各施設利用手続きの一元化の促進」	
平成24年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度から、社会教育・社会体育の全施設の利用申請を海洋センターで受け付けるようにした。 	
評 価	
<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育係と生涯学習係の職員は、平成23年度までは町文化会館で勤務していたが、平成24年度から町海洋センターに移動した。このことにより、社会教育・社会体育施設の利用手続きの一元化が図られた。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度から町文化会館の事務室が不在となったことから、文化会館利用者へのサービス低下が懸念される。 	

(4) 社会教育指導者との連携

教育重点施策 1 「社会教育指導者との連携」	
平成24年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度において新たに1名の町職員が社会教育主事としての任用資格を得ており、現在、社会教育主事として、社会教育の指導的立場で仕事している。 社会教育委員については、定期的に委員会を開催し情報共有を図ったり、各種社会教育委員研修会への積極的参加を呼び掛けたりした。 	
評 価	
<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度において本町教育委員会内に4名の社会教育主事が在籍していることは、社会教育や生涯学習を推進する上で、大きな力を発揮できるものとする。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> 社会教育主事の役割は、生涯学習のまちの構築を目指す上で、ますます重要となってくることから、一定期間社会教育を経験した職員に、今後も社会教育主事の資格取得講習会を受講させていきたい。 	

(5) 社会教育団体の活性化・支援

教育重点施策 1 「社会教育団体の活性化・支援」	
平成24年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの健全な成長を図ることを目的としているPTA活動を推進するため、町PTA連絡協議会を支援・援助した。 子育て支援・地域福祉等の社会問題、文化教養の向上に資する学習活動などを展開する町婦人会連絡協議会に対して、助言・支援をした。 町子ども会育成会、町青年団などの社会教育団体に対して、支援・援助を行った。 	
評 価	
<ul style="list-style-type: none"> 町PTA連絡協議会や町婦人会連絡協議会などの社会教育関係団体の自主的な活動に対して支援を行うことにより、社会教育の推進を図っている。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> 現在、粕川地区からの町婦人会連絡協議会への加盟者がいないことから、町全体の組織の再構築が求められている。 	

3 生涯スポーツの推進

(1) 生涯スポーツの活性化

教育重点施策1 「生涯スポーツ振興長期計画の策定」	
平成24年度実施状況	
・生涯スポーツ振興長期計画は、平成24年度は未策定だった。	
評	価
・東日本大震災で被災した社会体育施設（フラップ大郷21、総合運動場、海洋センター）の復旧が平成24年度に繰り越した影響などもあり、策定には至らなかった。	
課題と今後の取組	
・町民が生涯健康で、生きがいを感じて生活が送れるよう、今後、生涯スポーツの推進計画を策定する必要がある。	

教育重点施策2 「青少年の夢を育む活動の支援」	
平成24年度実施状況	
・本町のスポーツ少年団は、現在、野球・サッカー・剣道・柔道・バスケットボール・卓球など、計8団体が結成されている。このスポーツ少年団に補助金を交付し、活動を支援した。（補助金額 計26万円）	
評	価
・スポーツ少年団指導者が少年期の発達に応じた適切な指導が実施できるよう、講習会等に派遣し、指導者の知識・技術の向上を図った。	
・社会体育施設の適正管理に努め、スポーツ少年団等が施設を利用しやすい環境づくりに努めた。	
課題と今後の取組	
・子どもの体力向上や健全育成といった観点からも、地域に根ざしたスポーツ少年団活動の果たす役割が一層重要となってきたことから、「町・地域・保護者」が互いに連携し、今後も支援・協力体制を推進していく。	

教育重点施策3 「町民の健康・体力の維持増進を図る活動の奨励と支援」

平成24年度実施状況

- ・子どもの体力向上実践事業として、大郷小学校で「陸上クリニック」を実施した。

実施期間	内 容	参加者数
9月～10月（3日間）	陸上クリニック「横向き走、バック走、長距離走の呼吸法など」	小学生全員対象

- ・「おおさとスポーツデー」をおおさと夏まつりと同日に町海洋センターで実施し、ニュースポーツを体験する機会をつくった。

実施期間	内 容	参加者数
8月4日（土）	おおさとスポーツデー 「ユニカール、シャッフルボード、テニス、水泳」	85名

評 価

- ・子どもの体力向上実践事業は、本町では平成16年度から毎年度取り組んでいる。（平成16年度～18年度：文部科学省委託事業、平成19年度～町単独事業）

課題と今後の取組

- ・子どもの体力向上実践事業によって、児童の体力・運動能力を的確に把握・分析し、児童の体力向上のための実践的な取り組みを推進していく。

教育重点施策4 「地域をつくるスポーツ活動の奨励」

平成24年度実施状況

- ・スポーツで特に優秀な成績を上げた児童生徒に対し、町長及び教育長表彰を行った。（個人5名、2団体）また、東北並びに全国大会規模のスポーツ大会に出場した19名の児童生徒に対し、奨励金を交付した。

評 価

- ・スポーツの習慣化を図るためには、地域で気軽にスポーツを楽しむことができる場所の確保が欠かせない。4小学校の閉校と同時に、大松沢と粕川の旧小学校を社会教育センターとして活用し、一般開放した。

課題と今後の取組

- ・都市化の進展にともない、人と人とのつながりが希薄化する中で、「する」「見る」「支える」といった多様なかかわり方ができるスポーツは、地域コミュニティの活性化や再生につながるものとして期待されており、今後も奨励していく。

教育重点施策5 「生涯スポーツ団体との連携強化」

平成24年度実施状況

- ・町体育協会には、平成24年度現在、柔道・剣道・弓道・卓球・空手・バスケットボール・グラウンドゴルフ・ソフトボール、テニス・バレーボール・ビニールバレーボール・ゲートボールの計12部が加盟しており、それぞれ地域においてスポーツ活動を展開している。これらのスポーツ活動を支援するために、町体育協会に対して平成24年度補助金を計66万円交付した。

評 価

- ・町体育協会の加盟団体は、平成20年度の17団体をピークに、やや減少傾向にあるが、グラウンドゴルフ部のような新しい部も誕生している。

課題と今後の取組

- ・「町教育委員会・町体育協会・地域」の協働により、町民だれもがスポーツに親しむ環境づくりを形成するための事業展開を図る必要がある。
- ・各競技団体の組織育成を図り、団体の主催や主管による各種大会等を実施するための支援体制を強化していく。

教育重点施策6 「町・教育委員会の主催行事の活性化と、活動継続の支援」

平成24年度実施状況

- ・今年度、町・教育委員会が主催したスポーツ行事は以下のとおりである。

実施期間	内 容	参加者数
8月4日(土)	おおさとスポーツデー	85名
1月12(土)・13日(日)	一万人寒稽古(剣道・柔道)	238名
2月26(火)・27日(水)	B&G会長杯春季ゲートボール大会	13チーム65名
3月10日(日)	B&G会長杯県下招待剣道大会	57チーム340名

評 価

- ・毎年、本町で開催している「B&G会長杯県下招待少年柔道大会」は、東日本大震災による施設修繕のため中止した。

課題と今後の取組

- ・町体育協会や町スポーツ推進委員と協力連携しながら、新たな町民スポーツ大会等の企画・実施が課題である。

教育重点施策7 「ニュースポーツの普及と継続支援」

平成24年度実施状況

- ・近年、全国的に競技人口が増加しているニュースポーツの一つに「グラウンドゴルフ」がある。今年度も引き続き、本町教育委員会主催のグラウンドゴルフ講習会を開催した。(場所：やくらいパークゴルフ場)
- ・8月4日、「おおさとスポーツデー」を開催し、ユニカール、シャッフルボードなどのニュースポーツに住民が触れることのできる機会をつくった。
- ・町社会体育施設には、グラウンドゴルフ、ペタンク、キンボール、スカットボール、ペタンクなどの運動用具を揃えており、ニュースポーツの普及のため、地域行事への貸し出しなども随時行っている。

評 価

- ・今年度は、「第1回おおさと夏まつり」が開催されたが、それに合わせて「第1回おおさとスポーツデー」を実施し、多くの町民がニュースポーツに触れる機会をつくった。

課題と今後の取組

- ・ニュースポーツは、今までのスポーツのルールや道具を簡単にして、上手下手、強い弱い、早い遅いに関係なく、中・高年齢の方でも気軽に、すぐゲームができ、適度の運動量があって、しかも楽しむことができることから、生涯スポーツの一つとしてニュースポーツの普及に力を入れる必要がある。

教育重点施策8 「出前活動の促進」

平成24年度実施状況

- ・地域へのスポーツ講座等の出前活動は実施できなかった。

評 価

- ・各地区の公民館分館等からの出前活動の要請がなかったこともあり、地域に出向いてのスポーツ普及活動は実施しなかった。

課題と今後の取組

- ・地域住民が身近なところから健康づくりの活動を充実させるため、今後はニュースポーツなどの「出前活動」を展開し、地域スポーツの振興に力を入れていく必要がある。

(2) 生涯スポーツ指導者の支援

教育重点施策 1 「生涯スポーツ指導者の支援」	
平成24年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・トヨタ自動車東日本㈱ハンドボール部の専属トレーナーを講師に招き、町体育協会主催のスポーツ指導者講習会を開催した。 ・スポーツ推進委員やスポーツ少年団指導者などを宮城県等が主催する各種スポーツ指導者研修会に派遣した。 	
評	価
<ul style="list-style-type: none"> ・各種スポーツ指導者研修会を通して、町内のスポーツ指導者の資質向上を図った。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの普及を図るため、スポーツ推進委員だけでなく、スポーツリーダーやスポーツボランティアなどの育成・支援を図っていく必要がある。 	

(3) 生涯スポーツ団体の活性化支援

教育重点施策 1 「生涯スポーツ団体の活性化支援」	
平成24年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・町体育協会への支援・助成（平成24年度66万円）を行った。 ・町教育委員会主催のスポーツ事業（剣道大会・ゲートボール大会・一万人寒稽古等）を実施した。 ・町スポーツ少年団本部への支援・助成（平成24年度26万円）などを通して、各スポーツ少年団（剣道・卓球・バスケットボール・ミニバスケットボール・野球・サッカー・柔道）の育成を図った。 	
評	価
<ul style="list-style-type: none"> ・町体育協会や町スポーツ少年団本部への支援・助成などを通して、生涯スポーツ団体の育成を図った。 ・町教育委員会主催事業を通して、生涯スポーツ団体の活性化支援及び各種スポーツの普及・振興を図った。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・「総合型地域スポーツクラブ」は、住民が主体になって地域スポーツの振興を図ろうとする新たな試みであり、現在、全国の自治体でその組織化が進んでいる。そこで、本町においては、体育協会の休部団体、中学部活動の休部等の出現を考慮し、設立に向けた環境を醸成していく必要がある。 ・少年期の頃からスポーツ習慣を身に付けることによって、生涯にわたってスポーツを楽しむ基礎ができることから、スポーツ少年団体の育成強化を図る必要がある。 	

(4) 生涯スポーツ施設の整備と活用促進

教育重点施策1 「生涯スポーツ施設の整備と活用促進」		
平成24年度実施状況		
・平成24年度施設整備状況（スポーツ施設）		
事業名	整備内容	事業費
災害復旧事業	フラップ大郷21、総合運動場、海洋センター	4,665万円
施設修繕事業	フラップ大郷21、大松沢社会体育センター体育館、町民体育館	433万円
施設改修事業	野球場グラウンド整備工事	441万円
<ul style="list-style-type: none"> ・フラップ大郷21は、平成24年度からトヨタ自動車東日本㈱ハンドボール部のホームアリーナとして、週5日の練習のほか日本リーグなどの大会会場として利用されている。 ・町の社会体育施設のほか、休日における学校開放事業として、体育館や校庭の利用がなされている。 		
評価		
・生涯スポーツを推進するため、各スポーツ施設の整備充実に努めた。		
課題と今後の取組		
・海洋センターは、昭和60年オープン以来、28年が経過し、施設の一部に雨漏りが発生するなどしていることから、B&G財団の助成を受けながら、平成25年度において施設の全面改修を実施していく。（平成24年度繰越事業）		

4 文化財

教育重点施策1 「文化財の理解」	
平成24年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・大郷小学校の「社会科副読本」の中で本町の貴重な文化財を紹介しており、社会科の授業を通して大郷町の歴史や文化財についての理解を深めた。 	
評	価
<ul style="list-style-type: none"> ・学校、各種団体、一般町民などが、遺跡等の文化財や町歴史資料館へ足を運ぶ機会は一年を通して少なかった。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・本町の貴重な文化財について、広く理解を深めてもらうため、町の広報紙やホームページへの掲載などを検討していく必要がある。 ・学校や各種団体、一般町民などに対し、町指定文化財の学習や見学機会の提供を図る必要がある。 	

教育重点施策2 「文化財の保存・継承」	
平成24年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・町文化財保護審議会委員と共同してパトロールを実施した。(年1回) ・町指定文化財の管理業務を地域団体等に委託した。(諏訪古墳、山中古墳、大小寺遺跡、大松沢貝塚、箭楯神社、鹿島神社の5箇所、委託費計18万円) ・老朽化した文化財標柱(大小寺遺跡)1基を新設した。 ・町の無形文化財保存会(羽生田植踊、宮林神楽)に補助金を交付した。(計10万円) ・児童クラブ(旧大谷幼稚園)の一角にあった町歴史資料館を大松沢社会教育センターに移転した。 	
評	価
<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡のパトロールを実施し、文化財の現状把握に努めた。 ・無形文化財保存会に対しては、保存・継承のための助成だけではなく、生涯学習フェスティバルなどにおいて郷土芸能の発表の場を提供した。 ・何かと手狭だった町歴史資料館を大松沢社会教育センターに移転したことにより、ゆったりとした展示スペースを確保することができた。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・本町に眠る未指定の文化財の調査・保存を進めていく必要がある。 ・町歴史資料館については、他施設と関連づけた見学コース設定などを工夫して、町民が興味を持って足を運ぶことのできる施設にしていく必要がある。 	

教育重点施策3 「文化財関係機関（団体）の連携」

平成24年度実施状況

- ・ 県の文化財関係部署や仙台市博物館などの関係機関との協力・連携を図った。
- ・ 町文化財保護審議会を開催し、文化財の保全管理等について協議した。
- ・ 宮城県文化財保護指導員研修会に文化財保護委員と町職員が参加し、研さんを深めた。

評 価

- ・ 文化財保護のため、宮城県文化財保護課などの関係機関との情報交換と連携などを図った。

課題と今後の取組

- ・ 町の貴重な文化財を保全するためには、関係機関や文化財関係者、そして文化財周辺地域住民との連携・協力が一層必要となる。

V 点検・評価に対する学識経験者の意見

【 日下隆郎評価委員による意見 】

1 教育委員会の活動状況について

教育委員会では、毎年度、教育基本方針と重点的に取り組む施策を定め、これを基に各種の事業を展開しており、さらに毎月1回の定例会と必要に応じ臨時会を開催して、常に事務・事業に検討を加えていると思料されるとともに、会議のみならず、現場の意見に基づいた議論を行うために、式典等の行事への参加、学校訪問や視察、定例会終了後の研修等を積極的に行うなど、活発な活動を通じた教育行政の推進に努められていることは高く評価したい。

教育委員会の会議については、傍聴者が1人もいなかったことは残念に思う。会議の日時や場所、会議の概要等を周知する方法を検討されたい。

2 学校教育の充実について

(1) 幼児教育（幼稚園）

「大郷町の乳幼児を保育する」という認識のもと、幼稚園と保育園が同一の目指す幼児像「じょうぶな子ども・なかよくあそぶ子ども・がんばる子ども」を掲げ、幼保連携型の幼児教育に期待したい。

幼稚園の教育は、基本的な生活習慣を身に付ける大変重要な役割を担っており、家庭と連携を図りながら愛情豊かに育てられることを望む。

(2) 義務教育（小学校）

統合前、小規模校で過ごしていた児童が統合により1クラス30名以上に増え戸惑いを感じないよう少人数指導を取り入れたことにより、落ち着いて個に応じた指導ができたため、態度や理解度が良かったことは評価したい。併せて、今後も少人数指導の継続、充実を図られたい。

また、児童の主体的学習を促すために家庭学習と宮城教育大学との連携によるサマースクール・ウィンタースクールを引き続き取り入れ充実を図られたい。

大郷町生涯学習フェスティバルに特別支援学級の児童で編成した演奏は聴衆に大きな感銘を与えたことは評価したい。

(3) 義務教育（中学校）

運動会や学校コンクールは、保護者もとより、地域の方々へ案内し、地域の行事の側面も持たせたことは喜ばしい。また、生涯学習フェスティバル、おおさと夏まつりへの生徒の参加の支援は評価したい。

授業参観で学年・学級懇談会への参加者が少ないことは非常に残念である。参加

者を増やす手立てを考えられたい。

特別支援教育における技能教科、総合的な学習の時間は協力学級で学習を行っており、行事については可能な限り協力学級の一員として参加できるように配慮され、人とかかわる力が育ってきたことは評価したい。

「人間性豊かで未来を志向し、健康でたくましく生きる生徒の育成」を学校教育目標のもと、学校行事や部活動、創意工夫を凝らした学習指導等、先生・生徒たちの努力が見えてくる。今後も魅力ある力強い指導を望む。

※幼稚園・小学校・中学校の共通事項

生活環境は常に危険と隣り合わせにいると言っても過言ではない。登下校時に限らず一歩外に出れば交通事故や変質者との遭遇、場合によっては災害事変に巻き込まれる事例も発生していることから、学校・保護者・地域との連携の下に常に安全に対する教育訓練、防犯についての知識や処し方を身につけさせる事が大切である。

(4) 学校給食

児童生徒の成長期における発育発達と食との関係は密接な関係にあることから、学校給食の果たす役割は非常に大きい。家庭とも十分に連携を取り、食育の推進を図ってほしい。

地産地消を推進するため、地場農産物利用推進委員会と交流給食会を開催することで児童生徒の食育につながり、生産者の良質食材生産の意欲も増すものと思う。

学校給食センターは建築後15年が経過し、施設・設備の老朽化が懸念される。児童生徒が安心し、喜んで給食が食べられるよう衛生管理に意を用いて計画的に整備を図られたい。

3 生涯学習の推進について

生涯学習フェスティバルでは、保・幼・小・中すべての児童生徒のほか、文化協会加盟団体が出演した。作品展示では、公民館各種講座などで製作した作品展示が行われ、より多くの町民が日頃の学習の成果を発表することができたことは、大きな成果である。町民がいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができる生涯学習のまちを築くため、常に生涯学習ニーズの把握に努められたい。

第11回目の公演を迎えた町民劇場は、町民手づくりの演劇として町内外から高い評価を得ている。今後も継続して公演活動ができるよう、引き続き支援・協力を行っていく必要がある。

家庭・地域・学校が相互に連携して子どもを育てる協働教育プラットフォーム事業は今後ますます強力で推進する必要がある。県の補助事業が継続されるか未定のようなのであるが、町教育委員会事業として継続することを望む。

公民館は、住みよい地域づくりの情報交換の場として、安全で安心かつ快適に利

用しやすい場でなくてはならない。経年劣化が進む中央公民館は、多様な学習機会を提供する施設として、有効に利用できるよう整備及び維持管理に努める必要がある。

4 生涯スポーツの推進について

町民一人ひとりがスポーツを楽しみながら健康増進を図るには、気軽に利用できる施設の確保が必要になる。これらの施設が特定の利用者の専用にならないよう配慮する事が大切である。

また、地域住民が身近なところで健康づくりの活動を充実させるため、ニュースポーツなどの出前活動を展開し、地域スポーツの振興に力を入れていく必要がある。

東日本大震災で社会体育施設が大きく被災した関係で、生涯スポーツ振興長期計画が未策定になっているが、早期策定を望む。

5 文化財について

町内には、誇れる文化財が多く現存する。多くの町民が遺産を理解し、畏敬の念を持ち、保存・継承に努められることを望む。

町歴史資料館が大松沢社会教育センターに移転し、ゆったりとした展示スペースが確保されたのを機会に、他施設と関連付けた見学コースとして、興味を持って足を運ぶ施設にしていく必要がある。

町民の多くは文化財への関心度が低く、一層の啓発が必要とされる。このようなことから、各地域に現存する文化財について、地域住民を対象に町文化財保護委員の協力をいただき、説明会を開催するなどして、文化財への関心を高めることが必要である。

【 高橋竹光評価委員による意見 】

1 教育基本姿勢に関して

- 農村と都市、そして人が共生する「田園都市づくり」の推進は、町の特質と未来を踏まえた魅力ある構想と評価したい。
- 「町づくりは人づくり、人づくりは教育」と、町づくりの根幹はまさに教育にありと宣言し、その実現への不易の方法として「学校・家庭・地域社会の協働」を中心に据えていることも評価したい。

2 教育基本方針に関して

- 教育基本姿勢を目指し、その具現化に最も必要な分野を的確に押さえ、その方針を適切に設定していることを評価したい。

3 教育重点施策に関して

(1) 学校教育

町学校教育の努力目標は、適切な内容と評価したい。

この努力目標の実現を目指した、幼稚園・小学校・中学校の各教育重点施策に関しては、創意工夫と協働精神を重視して実践活動を展開していることが強く感じられ敬意を表したい。

特に、大郷町は幼・小・中が一園一校設置ということもあり、一貫教育に重点を置いていることは大いに評価できる。一貫教育においては、どのような子どもづくりを目指して教育するのかという理念を共有化し、そのための教育方法と手段、そして評価はどうあるべきか等十分な話し合いをもとにした認識の共有化が求められる。また、そのためには、情報の交流・人的な交流・授業の交流等各校種間での交流を重視し、子どもを多方面から理解する努力も求められる。今後とも、具体的に実効性のある取り組みを大いに期待したい。

(2) 社会教育

生涯学習が叫ばれて久しい。そして、今まさに高齢化社会の中にあって、一層生涯学習のあり方が今日的な課題になってきている。そのため、町民それぞれのライフステージにおいて、「いつでも・どこでも・思い立った時に」学べる環境や体制の整備が、現在求められている大きな課題でもある。

本町では、予算措置や施設・指導者の確保等に重点的に取り組み、学習環境や支援体制づくりが着実に定着していることを高く評価したい。

学習への興味・関心は個人差がある。そのため、学習集団を形成するまでも工夫と努力が求められる。今後とも、企画・運営（活動）・反省・評価のプロセスを

大事にしながら、活動の結果から出た課題については、次の企画・活動に反映させ、よりステップアップされた活動が推進されることを期待したい。

(3) 生涯スポーツ

長寿社会においてスポーツが果たす役割は誠に重要である。現在は高齢になっても、スポーツを通して健康を保ち、充実した生活を送ることができる。また、スポーツを生活の軸に据えてやりがいや生きがいを感じるライフスタイルを形成することは、精神面の充実はもとより健康増進にも結び付いている。

本町では、ライフスタイルに応じたスポーツ活動の場の提供や予算面での支援、また施設設備の保全にも心掛け、生涯スポーツの充実・発展に努めていることは高く評価したい。

ニュースポーツの普及とともに伝統的なスポーツのさらなる拡充も目指し、低年齢層のスポーツを愛好する人口を拡大する施策も課題である。また、学校教育における体力づくりと連動した生涯スポーツの発展を目指し、町ぐるみで「健康と長寿の町づくり」を標榜した取り組み等も今日的な課題である。

(4) 文化財

本町が持つ独自の歴史・文化を紐解く重要な手掛かりとなる文化財への興味関心は、決して高いものとは言えない。

このような現状において、各文化財の保存管理への予算化、遺跡パトロール、郷土芸能の発表の場の提供と周知、町歴史資料館の充実等への地道な努力に対して敬意を表したい。

歴史・文化への関心は、ともすると低下、そして衰退を招く。やはり、本町独自の歴史・文化を大切に守り未来に紡いでいく責任は、命ある我々を除いて他にはない。本町の歴史を切り拓き、今日の発展の礎を築いてきた先人の意志を受け継ぐ活動のさらなる発展のためにも、現状を改善する施策の推進を要望したい。

4 まとめ

- (1) 本町教育の充実発展のため、各分野の重点施策に対する真摯な取り組みに感謝と敬意を表したい。
- (2) 各分野の運営及び活動における課題については、さらに精査の上、実効性を目指した取り組みになることを特に期待したい。
- (3) 各分野の重点施策に対する町教育委員会並びに担当課の的確な指導・助言、そして温かい支援に感謝するとともに、さらなる成果を大いに期待したい。

【 若松ヨシ子評価委員による意見 】

1 学校教育の充実について

(1) 幼児教育（幼稚園）

大郷町の幼稚園教育の特徴のひとつに「保育園と一体化した教育の推進」が挙げられています。「大郷町の幼児を保育する」という共通認識のもと幼稚園と保育園が同じ「めざす幼児像」を掲げ両園の特質を生かしながら保育に取り組んでおり、その成果は他の町の模範にもなっていると思います。

他の町に先駆けて幼保一体教育に取り組んでいる両園の先生方は単独での保育よりも難しく大変なことも多々あることと思います。両園の先生方が愛情と英知を出して心をひとつにしてこれからも大郷の幼児のために、保育に当たっていただきたいと願っております。

一時預かり保育に加えて、通年の預り保育を実施していることは、就労している保護者、特に母親にとっては大変ありがたいことです。先生方のご苦労は大変なものと思いますが、保護者の皆さんがとても感謝していますのでこれからも続けていただきたいと思います。

防災・安全指導は、あらゆる災害を想定して避難訓練を実施しており幼児の防災意識も高まり、防災意識が身についているということで安心しました。また、ほとんどの幼児が通園バスを利用しているので、通園バス運行時に事故や地震が起きた時のことも想定して、対策を徹底していただきたいと思います。

「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」とロバート・フルガムが言っているように、幼稚園は人間形成の大切な時期の教育を担っているわけですから、家庭と連携を図りながら、幼児一人ひとりの個性を理解し、それを尊重して愛情豊かに大郷町の子どもたちが育てられることを望んでいます。

教育委員会として幼児教育についてあらゆる面で適切に点検と評価がされており、指導も行き渡っており高く評価できるものです。

(2) 義務教育（小学校）

「ゼロから一步進むのは、その後の一步から百歩進むよりも難しい」というユダヤの格言がありますが、町内の4つの小学校が統合して1年目ということで、この一年間は学級内の人間関係が円滑にできるように等毎日毎日大変であったことと思います。

以前の4つの小学校にはそれぞれ特徴があり、児童や地域の方たちの熱い思いがそれぞれたくさんあったことと思います。それを全部生かすことはできないのですから、新しい歴史をここから築き上げる第一歩という考えで進んでください。

「特色と活力に満ち信頼される学校教育の推進」のもと学校・家庭・地域の協働

による学校づくりが進められている様子が行事等のひとつひとつに見られます。地域人材・地域素材を活用してのサケの体験学習や米作りなど学習のねらいが達成されています。

安全指導にも常に万全の対策で臨んでいる様子が見えます。特に東日本大震災の経験から、あらゆる事態を想定して例えばスクールバス運行時や通学・下校時に地震等が起きた時の対応なども万全であると思いますが、ここでも地域人材を活用し積極的に協力を呼び掛けてください。

新しい小学校を立派にスタートさせ、教育委員会としての目的達成のための指導と点検・評価を高く評価します。

(3) 義務教育（中学校）

町内の2つの中学校が平成20年に1校になり5年が過ぎたわけですが、現在の大郷中学校の活躍ぶりをみると1プラス1が2ではなくて3にも4にも5にもなっていると感じます。

大郷町の教育基本姿勢の「学校や家庭及び地域社会が協働しながら教育を推進する。」を具現化して学校行事を地域の行事としての側面を持たせて、多くの保護者・地域の方々に参加してもらい教育活動の成果を見てもらっているという積極的な教育姿勢に敬意を表します。

今後の課題として「普段の家庭学習の習慣がなかなか定着しない」ことが挙げられています。これの解決方法は保護者にとっても教師にとっても永遠の課題ではないかと思いますが、家庭学習の取り組みも学力の向上に欠かせないと思いますので、学校と家庭が協力して中学生が学ぶことの喜びを感じ、少しずつでも家庭学習の習慣が身につくようになることを願っています。

教育委員会として中学校の教育についても適切に管理並びに点検・評価及び指導が行き渡っていると高く評価できます。

(4) 学校給食

成長期にある幼児・児童・生徒にとって学校給食は健康管理に欠かすことができないものであります。特に現在は必ずしも健康を意識して食事を考えているとは思えないような家庭も多く見られます。ですから学校給食の果たす役割は大きいわけです。

放射能や食物アレルギーなどの諸問題が多くあり、今日ほど学校給食の提供の難しい時代はないのではないかと思います。食物アレルギーでも食材は一つだけではなく個々の子どもで違うわけですから、一人ひとり完全に把握していないと死につながることもあるので毎日毎日緊張の連続ではないでしょうか。本当に大変な仕事であると思います。これからも放射能測定の結果を公表して保護者等に食材の安全性の意識を高めてほしいと思います。また、「安全でおいしい給食の提供」を重

点施策として食育の推進に努め、新鮮な地場農産物等の活用や子どもたちの要望を取り入れた魅力ある給食、今ではあまり家庭で作られなくなった郷土食や行事食も提供していただき、子どもたちに豊かな食生活を味わわせてください。

教育委員会としての施設・設備や健康管理並びに点検及び評価、指導について高く評価します。

2 生涯学習の推進について

「学校・家庭・地域の強い絆のもと、生涯にわたる教育の充実に努める。」という大郷町の教育基本方針にのっとり、生涯学習の推進では「自分を磨き、豊かな学びを育む」ことをうたっていますが、この推進の成果は生涯学習フェスティバルの学習発表を見れば一目瞭然です。生涯学習というと大人のものと思われがちですが、本町では幼児から学べるようにいろいろな教室が設定されております。各教室の講師の先生方にも敬意を表します。展示された作品も大変レベルの高いものでした。子どもたちの絵画を見て指導の先生の情熱が伝わってきました。また、生涯学習では学習内容が身につくだけでなく、仲間づくりや生き甲斐づくりも期待されるものだと思います。

教育委員会として生涯学習の推進のため管理及び評価、指導に十分努力していると高く評価できるものです。

3 生涯スポーツの推進について

町民が生涯健康で、生き甲斐を感じて生活ができるようにと「生涯スポーツの推進」がなされています。そこで勝敗を競うことに重点を置くスポーツの推進だけではなくて、上手下手、強い弱い、速い遅い等にとらわれずに誰もが、特に中・高年の男女が気軽に楽しく参加できてしかも適度の運動量があるようにと工夫して、ニュースポーツの普及に努めていることに敬意を表します。

教育委員会として生涯スポーツの振興、目的達成のための執行評価、指導に十分努力していると高く評価します。

「第1回おおさとスポーツデー」の成果を生かしてこれからも第2回、第3回と続けて、もっともっと町民にスポーツの楽しさを味わわせてください。

4 文化財について

本町が有形・無形の文化財の保存・継承に並々ならないほど力を入れている様子がうかがえます。しかし、残念なことに町民は必ずしも文化財に対して興味・関心度が高いとは言えません。本町には遺跡等の文化財が多くあることや貴重な文化財を町歴史資料館に展示されていることがあまり知られていないように思います。町民に遺跡等の文化財や町の歴史資料館に足を運んでもらうために広報等で呼び掛

けていただきたいと思います。

無形文化財の保存は、継承・維持をしていかなければならないので有形文化財とは違った難しさがあると思います。生涯学習フェスティバルなどにおいて郷土芸能の場を提供して保存・継承のために力を入れていることに敬意を表します。小学校の「社会科副読本」の中では本町の貴重な文化財が紹介されており、子どもたちは授業を通して町の歴史や文化財について理解を深めています。子どもを通して町民にも理解を深めてもらうことを期待しています。

文化財の管理業務の予算に応分の措置が講じられるよう努力している事や文化財の管理及び町民への紹介等から、教育委員会として町の文化財及び点検・評価に十分努力していると高く評価できるものです。